

加齢医学（－Geriatric Medicine－）

I 教育の基本方針

加齢医学分野の臨床・研究に関する知識・技術を習得し、“老年医学マイスター”と呼ぶことができる人材を養成する。

II 年次毎の到達目標

1年次	初期研修によって得た知識を基盤とし、加齢医学の知識と技能を習得する。また、老年病の病因と病態を理解し、研究テーマの探索・関連論文の抄読の仕方を学び、研究計画を立案し、2年次以降の研究に備える。
2年次	1年次に習得した知識、技能を利用し、研究を開始する。
3年次	計画に沿って研究を遂行する。その際、指導医と進捗を確認しながら、研究の方向性を確認、もしくは適切に修正する。
4年次	研究成果をまとめ原著論文ならびに学位論文を作成する。

III 担当教員・研究テーマ

教授	神崎 恒一	老年医学、認知症、加齢性筋肉減少症（サルコペニア）、フレイル、動脈硬化
教授	大荷 満生	高脂血症、栄養療法
准教授	海老原 孝枝	老年医学、認知症と誤嚥性肺炎・摂食嚥下障害のメカニズムに関する研究、老年症候群とアロマセラピー

IV 研究指導補助教員

助教 井上慎一郎 長田正史 輪千督高

V 授業科目一覧

種別	科目名	単位	開講時期	標準履修年次
講義・演習	講義・演習	4	半期	1年次
実験・実習	実験・実習	8	通年	2年次又は、 1－2年次
専門分野 共通科目	課題研究	8	通年	3年次又は、 2－3年次
	研究論文演習	4	通年	3年次又は、 4年次

開講年度	2021	開講時期	半期	標準履修年次	1年次	単位	4
科目名	講義・演習						
担当教員	神崎恒一、大荷満生、海老原孝枝						
曜日・時限等	春学期：月曜日 3・4時限（13：15－14：45・15：00－16：30） 秋学期：月曜日 3・4時限（13：15－14：45・15：00－16：30）						
教室等	A 講義棟4階研究員室 B 3-8病棟 C もの忘れセンター D 臨床医学研究棟5階研究室						
教育の基本方針	自立した研究が行えるよう、加齢医学研究に必要な一般的な知識と技能を培う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体諸臓器における加齢変化を理解する。 2. 高齢者の疾病像「非典型的な病状、治療に対する反応性など」を理解し、対応できる。 3. 多臓器疾患に起因する老年病を総合的に評価し、対応できる。 4. 医療、福祉、看護のチームケアシステムを理解し、臨床的に実践できる。 5. 高齢者の終末医療を多面的に理解する。 6. 1-5を通して、加齢医学研究シーズの探し方を学ぶ。 						
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ○病棟実習 病棟診療チームに属して上級医の指導の下で病棟業務を行う。実習は病棟、外来、当直のなかで行う。 ○当直実習 上級医と二人で行う。救急初期診療チーム（Advanced Triage Team: ATT）から相談を受け、適宜入院業務を行う。 ○外来実習 高齢診療科外来ともの忘れセンター初診外来を担当する。判断に困る場合は上級医に相談する。 ○新規入院患者プレゼンテーション（木曜、3-8病棟にて） ○病棟回診（3-8病棟にて） ○抄読会（木曜、3-8病棟にて） ○画像診断カンファレンス（月曜16時、もの忘れセンターにて） 						
授業計画	<p>第 1-10回 病棟実習、当直実習、新規入院患者プレゼンテーション、病棟回診 第11-20回 病棟実習、当直実習、新規入院患者プレゼンテーション、病棟回診 第21-30回 病棟実習、当直実習、新規入院患者プレゼンテーション、病棟回診、外来実習、抄読会、画像診断カンファレンス</p> <p>病棟回診の際に、毎回新規に学習した内容について報告する。</p>						
準備学習と授業外の学習方法	学習指導書を用いて高齢医学に関する理解を深める。 CITI Japan(e-learning)の医学研究者標準コース(15単元)を受講すること。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	<p>認知症テキストブック（日本認知症学会） 高齢者総合的機能ガイドライン（厚生科学出版） 精神科臨床における画像診断（中山書店） 新老年学（東大出版会） 老年医学テキスト（日本老年医学会） 健康長寿診療ハンドブック（日本老年医学会） 介護予防ガイドライン（厚生科学出版） Kuebler KK, et al: End-of-life care, Clinical Practice Guidelines.</p>						
成績評価方法	出席（50％）、症例提示（50％）						
成績評価基準	25ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/						
備考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で別な時間割を決定する。抄読会には必ず出席すること。質問等の受付は随時。 連絡先；高齢医学教授室 内線5720、Email；kozaki-tky@umin.org						

開講年度	2021	開講時期	通年	標準履修年次	2年次又は、1-2年次	単位	8
科目名	実験・実習						
担当教員	研究テーマにより決定する。						
曜日・時限等	学習内容を参照 ※参加が難しい場合には協議のうえ時間割を決定する。						
教室等	A 講義棟4階研究員室 B 3-8病棟 C もの忘れセンター D 臨床医学研究棟5階研究室						
教育の基本方針	研究を遂行できるよう、加齢医学分野で必要な専門知識と技能を培い、適切なデータの収集と分析ができるようになる。担当教員と相談の上、研究計画を立案する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年症候群（認知症、せん妄、嚥下障害、転倒、失禁など）の概念を理解し、対策を立てることができる。 2. 加齢性筋肉減少症（サルコペニア）、フレイル（虚弱）の概念、定義、病態を理解する。 3. 研究の種類を学び、テーマと研究環境に沿う研究デザインを選択することができる。 4. 統計学について学び、解析能力を身に着ける。 5. 必要な文献を検索し、引用することができる。 						
学習内容	<p>○加齢医学に関して幅広く学習指導書、原著論文、国内外のレビューを抄読し、論文作成を進めるにあたって研究の背景、目的、方法、結果、考察の構成、内容について理解する。</p> <p>○抄読会等で科学論文の書き方を習熟する。</p> <p>○画像診断カンファレンス（月曜16時、もの忘れセンターにて）</p>						
授業計画	<p>第 1- 30回 老年症候群の理解のための学習</p> <p>第 31- 60回 サルコペニア、フレイルに関する文献的学習</p> <p>第 61- 90回 統計学習</p> <p>第 91-120回 文献検索と関連文献の抄読</p> <p>30, 60, 90, 120回目に各単元で学習した内容について報告する。</p>						
準備学習と授業外の学習方法	<p>授業計画のテーマについて事前に文献などを調べること。</p> <p>学習指導書等に挙げた文献・参考書等を学期中に確認すること。</p> <p>専門領域における学会に参加し知識を深める。</p>						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	<p>認知症テキストブック（日本認知症学会）</p> <p>高齢者総合的機能ガイドライン（厚生科学出版）</p> <p>精神科臨床における画像診断（中山書店）</p> <p>新老年学（東大出版会）</p> <p>介護予防ガイドライン（厚生科学出版）</p> <p>バイオサイエンスの統計学（南入堂）</p>						
成績評価方法	出席（50%）、筆記試験（50%）						
成績評価基準	25ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/						
備考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で別な時間割を決定する。抄読会には必ず出席すること。質問等の受付は随時。 連絡先；高齢医学教室内線3640、Email；kozaki-ky@umin.org						

開 講 年 度	2021	開 講 時 期	通 年	標 準 履 修 年 次	3年次又は、2-3年次	単 位	8
科 目 名	課題研究						
担 当 教 員	研究テーマにより決定する。						
曜 日 ・ 時 限 等	履修者の研究内容によって個別に指導を行う。 ※参加が難しい場合には協議のうえ時間割を決定する。						
教 室 等	A 講義棟4階研究員室 B 3-8病棟 C もの忘れセンター D 臨床医学研究棟5階研究室						
教 育 の 基 本 方 針	1年次～2年次に学習した知識をもとに、研究計画に基づいて研究を実行し、データ収集を行う。						
到 達 目 標	1. 自らが立案した研究計画にそって研究を実行できる。 2. データの収集と適切な取り扱いと統計処理ができる。 3. 研究内容を正しくまとめ、記録できる。 4. 結果を論理的に図表にまとめられる。						
学 習 内 容	加齢医学に関して幅広くテキスト、国内外のレビュー、原著論文を抄読し、論文を作成するにあたっての研究の背景、目的、方法、結果をまとめるための作業を行う。						
授 業 計 画	第 1- 20回 研究計画の立案 第 21- 40回 研究データの収集 第 41-100回 研究データに統計的解析を加える 第100-120回 研究結果を図表等にまとめる 20, 40, 100, 120回目に各分野の成果を報告する。						
準備学習と授業外の学習方法	教室以外でもデータの解析を行い、先行研究結果と対比を行う。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	精神科臨床における画像診断 (中山書店) 新老年学 (東大出版会) バイオサイエンスの統計学 (南入堂) 国際誌にアクセプトされる医学論文 (MEDSI)						
成 績 評 価 方 法	研究成果の発表 (100%)						
成 績 評 価 基 準	25ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/						
備 考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で別な時間割を決定する。抄読会には必ず出席すること。質問等の受付は随時。 連絡先；高齢医学教室内線3640、Email；kozaki-tky@umin.org						

開 講 年 度	2021	開 講 時 期	通 年	標 準 履 修 年 次	3年次又は、4年次	単 位	4
科 目 名	研究論文演習						
担 当 教 員	研究テーマにより決定する。						
曜 日 ・ 時 限 等	履修者の研究内容によって個別に指導を行う。 ※各ケースで協議のうえ具体的な時間割を決定する。						
教 室 等	A 講義棟4階研究員室 B もの忘れセンター C 臨床医学研究棟5階研究室						
教 育 の 基 本 方 針	まとめたデータをもとに、論文を作成する。						
到 達 目 標	1. 追加データの収集を行い、結果と考察を完成させる。 2. 原著論文を作成する。 3. 国内外の学会、研究会で発表を行う。 4. 博士論文の完成						
学 習 内 容	○論文構成の仕方、書き方を学ぶ。 ○作成する論文に関する国内外のレビュー、原著論文を抄読し、背景・目的、考察の中に加え、論文完成に向けて準備を進める。 ○学会発表のためのプレゼンテーションを準備する。						
授 業 計 画	第 1- 5回 考察をまとめる。 第 6-10回 追加データを収集する。 第11-15回 学会発表を準備する。 第16-30回 博士論文を完成させる。 5, 10, 15, 30回目に各段階での成果を報告する。30回目は複数回実施。						
準備学習と 授業外の 学習方法	指導内容に基づき次回までに論文原稿の当該箇所を修正しておくこと。						
学習指導書 (テキスト・参考文献等)	新老年学 (東大出版会) バイオサイエンスの統計学 (南入堂) 国際誌にアクセプトされる医学論文 (MEDSI)						
成 績 評 価 方 法	論文の作成 (100%)						
成 績 評 価 基 準	25ページ「9.成績評価」又は、以下URLの「5.成績評価」を参照 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/graduate/medicine/aboutus/outline/						
備 考	上記の日時に参加できない者は、協議の上で具体的な時間割を決定する。 質問等の受付は随時。 連絡先；高齢医学教室内線3640、Email ; kozaki-ky@umin.org						